

DVD「驚くべき惑星、地球」 The Privileged Planet

「最新の科学は
聖書を支持する」

評・赤江 弘之

(東京キリスト教学園理事
長、西大寺キリスト教会主
任牧師)

探査機「はやぶさ」が地球を持ち
帰ったカプセルに、小惑星「イトカ



DVD「驚くべき惑星 地球」 The Privileged Planet

原版制作：Illustra Media
日本語版出版：ゴフェルトウリー・プロダクション
音声・字幕共：日本語・英語選択可 60分
1,890円(税込み)

拠は全く逆のことを示しています。惑星が生命を育むための多くの条件を、すべて満たさなければ生命は存在できません。その可能性は限りなく低く、銀河系全体でもありえないという計算がなされています。

このことを研究したNASAの宇宙生物学者たちが、このDVDを制作しました。彼らは生命に不可欠な惑星の条件を挙げ、それらの条件が

書を支持しており、私たちはそのことを再発見する、そういう時代に入ったと感じるのは私だけでしょうか？ 聖書は次のように言っています。

「天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、すなわちこれを堅く立てた方、これを茫漠としたものに創造せず、人の住むかにこれを形造った方(イザヤ45章18節)」

「あまりにもすばらしい偶然の重なり」

評・宇佐神 実

(ジェネシスジャパン会長)

ワ」の微粒子が多く採集されていたという快挙が、報道を賑わせています。テレビ番組に出演した大学教授は、「生命の起源は宇宙から来た。宇宙には膨大な数の星があるのだから、きっと地球のような生命の惑星も多くあるだろう。次は生命の起源となる有機物の探査を期待したい」と解説していました。

ところが一方で、最新の天文学証

宇宙を観測するための条件にもなっていることを、驚きの映像と共に紹介しています。そして、地球が宇宙でたぐい稀な存在であるということだけでなく、その背後に何らかの意思があることを示唆し、宇宙の意味を問いかけています。

20世紀に、科学と聖書は相反するというイメージが広がってしまいました。しかし、最新の科学事実

20世紀の代表的天文学者、故カール・セーガン博士が最後に書いた本が「Pale Blue Dot(青白いしみー邦訳「惑星へ」)」でした。セーガン博士が最後まで提唱し続けたのは、地球とは、宇宙の中のあるありふれた恒星系の一つである辺境の太陽系の中にある、さらに目立たない青白いしみのような惑星なのだということでした。セーガン博士は、宇宙も地球も創造されたのではなく、進化によって偶然に出現したのだと信じており、地球のような惑星は宇宙進化の歴史の中でたくさんできたはず

だと考えていたのです。

本DVDが訴えかけるのは、「地球とは、本当にありふれたつまらない惑星で、宇宙から見たら無に等しい存在なのだろうか」という課題です。そして、21世紀の科学者たちが研究の中でさまざまな証拠を通して宇宙から読み取ったのは、セーガン博士の推測とは正反対の地球観でした。

私たちの住む惑星「地球」は、宇宙の中で特別な星であり、DVDの科学者の言葉を借りて言えば「誰かの陰謀」のように見える惑星です。偶然ではなく、誰かが意図的に宇宙の中の地球の場所や大きさを決め、進化論を信じている人たちから見るとあまりにもすばらしい偶然が、幾重にも重なって存在しているのが地球だということです。

聖書にはそのような存在、知恵と知識に富み、愛と慈しみに溢れる天地を造られた創造主のことが書かれています。地球と私たちが、創造主にとってどういう存在かをわかりやすく考えさせてくれるこのDVDを、是非ご覧いただきたいと思えます。

